【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第７部門第３区分
【発行日】平成22年6月24日(2010.6.24)

【公開番号】特開2008-289039(P2008-289039A)
【公開日】平成20年11月27日(2008.11.27)
【年通号数】公開・登録公報2008-047
【出願番号】特願2007-133904(P2007-133904)
【国際特許分類】
Ｈ０４Ｎ　5/232　(2006.01)
Ｈ０４Ｎ 101/00　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｈ０４Ｎ　5/232　Ｚ
Ｈ０４Ｎ 101:00

【手続補正書】
【提出日】平成22年5月7日(2010.5.7)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
複数の機能を有する情報機器において、
レンズと、
上記レンズが形成した像を画像信号に変換する撮像素子と、
上記画像信号に基づいて、ユーザーの被写体像が第１の範囲に存在するか第２の範囲に存在するかを判定する判定部と、
この判定部の出力に応じて上記複数の機能のいずれかを選択する選択手段と、
を備えることを特徴とする情報機器。
【請求項２】
上記レンズの光軸方向からの入射光によって上記第１の範囲に上記被写体像が形成され、上記レンズの光軸に対して斜めの方向からの入射光によって上記第２の範囲に上記被写体像が形成されることを特徴とする請求項１に記載の情報機器。
【請求項３】
上記情報機器は、カメラ、再生機能付きペンダント、ゲーム機器、携帯電話、ＰＤＡのいずれかであることを特徴とする請求項１或いは２に記載の情報機器。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】発明の名称
【補正方法】変更
【補正の内容】
【発明の名称】情報機器
【手続補正３】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００１
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００１】

本発明は、情報機器に関し、詳しくは、被写体を撮影する撮影機能と他の機能を有する情報機器に関する。
【手続補正４】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００７
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００７】
本願発明は、このような事情を鑑みてなされたものであり、撮影機能に切り換えるにあたって、自動かつ確実に切り換えることのできる情報機器を提供することを目的とする。
【手続補正５】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００８
【補正方法】削除
【補正の内容】
【手続補正６】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００９
【補正方法】削除
【補正の内容】
【手続補正７】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１０
【補正方法】削除
【補正の内容】
【手続補正８】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１１
【補正方法】削除
【補正の内容】
【手続補正９】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１２
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１２】
上記目的を達成するため第１の発明に係わる情報機器は、複数の機能を有する情報機器において、レンズと、上記レンズが形成した像を画像信号に変換する撮像素子と、上記画像信号に基づいて、ユーザーの被写体像が第１の範囲に存在するか第２の範囲に存在するかを判定する判定部と、この判定部の出力に応じて上記複数の機能のいずれかを選択する選択手段を備える。
【手続補正１０】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１３
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１３】
第２の発明に係わる情報機器は、上記第１の発明において、上記レンズの光軸方向からの入射光によって上記第１の範囲に上記被写体像が形成され、上記レンズの光軸に対して斜めの方向からの入射光によって上記第２の範囲に上記被写体像が形成される。

また、第３の発明に係わる情報機器は、上記第１或いは第２の発明において、上記情報機器は、カメラ、再生機能付きペンダント、ゲーム機器、携帯電話、ＰＤＡのいずれかである。
【手続補正１１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１４
【補正方法】削除
【補正の内容】
【手続補正１２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１５
【補正方法】削除
【補正の内容】
【手続補正１３】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１６
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１６】
本発明によれば、撮影機能に切り換えるにあたって、自動かつ確実に切り替えることのできる情報機器を提供することができる。